

令和7年度 第12回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

■日 時：令和8年3月17日（火）午後2時～4時

■場 所：第2庁舎6階打合せ室

■出 席：(敬称略)

(委 員) (5名) 浅田 多津子、室 英治、西尾 克人、石川 伊智郎、
杉村 康之

(事務局) (2名) 熊谷 一茂、青木 大地

■欠 席：(敬称略)

(委 員) (1名) 藤間 利明

(事務局) (2名) 柳下 豊宏、田口 敦

■議 事

1. 報告

① 令和7年度 第11回検討調整会議事録・・・

- ・(事務局:青木) 議事録内容について説明。
- ・(浅田委員) 2. 議事③の表記について、自身の発言部分が別の者の発言のように記載されている箇所がある。
- ・(事務局:青木) 言い回しを修正する。

② 活動センター事業について・・・

- ・(事務局:青木) 今年度実施した事業一覧に基づき、前回会議以降の実施状況について報告。3月7日に春の親子かんきょう塾バス見学を実施し、狭山丘陵の野山北・六道山公園及び小平市ふれあい下水道館を訪問した。参加者は子ども18名、保護者17名の計35名であり、これにサポーター6名及び事務局を加えた計43名で実施された。参加者アンケートについては、17組中16組から回答があり、講座の満足度及び環境への理解の深まり等の項目について、いずれも高評価であった。特に、苗木の植樹体験では、親子が熱心に苗木を植える様子が見られ、参加者にとって非常に貴重な経験になったのではないかと思う。また、今月末には市民桜まつりが開催される予定であり、3月28日から29日まで、府中公園・桜通り周辺において活動センターの展示紹介を行う旨報告。今回もかんきょう塾ネットと共同で展示を行い、葉っぱプリント体験が実施される予定である。都合が合えばぜひ立ち寄ってほしい。今年度の事業全体について、かんきょう塾は昨年度が全7回・参加者総数108名であったのに対し、今年度は全8回・参加者総数209名であり、1回当たりの平均参加者数も昨年度の15名から26名へと大きく増加した。魅力的なカリキュラムに加え、新たな広報手段として学校向けのスマート連絡帳を活用したことも効果が

あったのではないかと考えている。スマート連絡帳については、学校側から継続利用が難しいとの話も出ており、今後はこれに代わる広報手段も考えなければならない。

- ・(杉村委員) かんきょう塾の参加人数はかんきょう塾ネットのメンバーも含めた人数であるか。
- ・(事務局：青木) かんきょう塾ネットのメンバーも含めた人数である。
- ・(浅田委員) 申し込んだものの抽選等で参加できなかった人の状況についてはどうか。
- ・(事務局：青木) 令和6年度と比べると、夏の親子バス見学では申込者が増加したことで落選者も増えたが、春の親子バス見学では欠席やキャンセルが生じたため繰上げが可能となり、参加要件を満たしていない一部の申込者を除けば、ほぼ落選はなかったと説明した。また、かんきょう塾⑤のバス見学では抽選はあったものの落選者は少数であった旨補足。今後は広報時期にもう少し余裕を持たせられるよう、スケジューリングを改善していきたい。

③ 市民協働・共創促進事業について・・・

- ・(事務局：青木) 先週、協働共創推進課より、センターの募集記事に対する提案があったとの連絡が入った。提案事業者の事業概要としては、令和8年度7月から翌年2月にかけて計3回のワークショップを実施する内容であった。提案を受け、3月16日には、協働共創推進課・環境政策課・提案者側の三者で初回の顔合わせを兼ねた打合せが実施された。初回の打合せでは主として、今後のワークショップの目的意識を共有する程度であり、今後は3月末までに改めて提案書や見積書等を協働共創推進課へ提出してもらい、それを基に事務局側にも情報が共有され、さらに三者で打合せを重ねていく予定である。最終的には4月末までに必要書類を固め、5月26日の審査会に向けてプレゼン内容を作成していく流れとなる。今後、別の事業者からも提案がなされる可能性もあるため、あくまで現時点での想定である。
- ・(事務局：熊谷) 今回のワークショップに求める成果物について説明。事務局としては、大きく二つの軸を求めており、一つは既存の環境団体等が活動センターに対してどのような支援ニーズを持っているかを把握し、整理すること。そして、もう一つは新規参加者を獲得する方策を探ることである。これらを踏まえ、支援ニーズの整理、新規参加者獲得案、それらを基にした今後のセンターの構想までを成果物として提出してもらいたい。
- ・(浅田委員) 想定していたスケジュール通りに進められるのか。
- ・(事務局：青木) 当初は来年度実施するワークショップの成果物を再来年度

予算要求に反映させる想定であったが、ワークショップが7月から翌年2月まで続き、その成果物の取りまとめも必要となると、時期的に再来年度予算には間に合わない可能性が高い。そのため、現実的には令和10年度予算への計上を目指す形となり、令和10年4月からの運用開始が目標となる。

- ・(事務局：熊谷) 理想としては令和9年度から移行期間のような形で少しでも関与を始められればよいが、その可否は今後の進捗次第となる。令和9年度の環境月間で、ワークショップの結果を小規模なシンポジウムの形で広報することも一案として考えている。
- ・(石川委員) ワークショップの前倒しは行えないのか。
- ・(事務局：熊谷) 審査会が5月下旬であり、その後の契約手続を経るため、どうしても7月以降の開始となる。
- ・(杉村委員) 3回ではなく2回分の成果物で予算要求はできないのか。
- ・(事務局：熊谷) 仮の成果物としてまとめることは不可能ではない。ワークショップの中身次第で検討の余地はある。
- ・(浅田委員) 検討調整会で内容を膨らませることはできるのか。
- ・(事務局：熊谷) 打合せはまだ初期段階であり、提案者側が何を求めているのか、何を決めておいてほしいのかが具体化していないため、現時点ではこの場で何を議論するかは明確ではないが、今後はリンクさせていく必要がある。
- ・(浅田委員) 令和9年度にどの程度予算を膨らませるのか考えているか。
- ・(事務局：熊谷) 完全に外部化する場合は大きな金額になると想定しているが、どこまで委ねるかによって大きく変わる。市としては費用確保が主な役割であり、企画調整は委託先と委員の協力のもと進める形をイメージしている。
- ・(室委員) 環境に特化した団体ではない者が中心となってセンターのあり方を取りまとめてよいのか、既存の市内環境関係団体の声をどのように反映するのか。
- ・(事務局：青木) ワークショップには市内で環境保全活動をしている団体にも声を掛け、意見を得る予定であり、最終的な取りまとめは提案団体側が行うとしても、既存団体の声はワークショップを通じて反映されるのではないかと考えている。
- ・(事務局：熊谷) 今回の構想は「グラウンドワーク三島」をモデルケースとするイメージであり、環境教育・環境啓発と既存団体支援を両輪として新たなセンター像を考えていくものである。まずは、ワークショップを実施し、そこから出た意見を集約していくことを第一歩としたい。

④ 活動センターだより 51号について・・・

- ・(事務局：青木) 作成を進めてきたセンターだより第51号が完成し、先日納品されたことを報告。紙面では、最終ページに「サポーターの声」の欄を設け、実際にサポーターとして活動している方の協力を得て、活動者の生の声を掲載した。完成したセンターだよりは、市民桜まつりで配布するほか、4月以降、市内各施設や関係団体等にも配架・配布する予定であり、来年度からはかんきょう塾の開催時にも配布するなどして、認知度向上のために活用したいと考えている。
- ・(浅田委員) センターだよりの名称について、「環境保全活動センター」である以上、「保全」が入らないのはどうなのか。
- ・(事務局：青木) 現状のロゴやレイアウト上の都合から「保全」を入れると文字が小さくなってしまうため現名称としていたが、正式名称との整合を踏まえると今後見直しの余地がある。
- ・(室委員) 今回、他自治体のパンフレットとの比較は行ったのか。
- ・(事務局：青木) 「エコルとごし(品川区)」のような環境施設の広報物を参考にしているが、レイアウトや見せ方などのクオリティは到底及ばない。
- ・(石川委員) 今回、用紙がコート紙からマット紙に変更されており、読みやすくなっている。

⑤ その他・・・無し。

2. 議事

① 令和8年度の活動センター事業について・・・

- ・(事務局：青木) 配布資料の裏面に記載した令和8年度予定一覧に基づき、来年度事業の現時点での予定を説明。まず、5月16日にかんきょう塾の第1回を実施することが決まっており、内容は「里山のバス見学」を予定している。午前中は住崎氏に多摩の里山を案内していただく予定であり、稲城側の里山については、藤間委員がパルシステム東京を通じて管理団体に受入れ可否を確認中。両方の受入れが可能であれば、2つの里山を巡るバス見学としたい。また、第1回がバス見学となるため、例年実施している開講式は往路の車内で行う想定である。6月20日の市民環境セミナーについては、当初検討していた農工大サークル set の講座から変更し、同大学の田中准教授による「府中の大地の物語～暮らしを支える土壌の働き～」と題した講演を実施することとなった。会場はひばりホールで、時間は午後2時から4時。講演後に質疑応答を行う予定であり、質問は事前に集めて整理した上で講師に回答してもらおう形を想定している。かんきょう塾の第2回については、浅田委員及び農工大サークル set 代表：宮崎氏と

打合せを行い、実施に向けて準備を進めている。仮テーマとして「マイクロプラスチック」と設定しているが、宮崎氏としてはグループワーク型やペアティーチング型の形式を考えており、環境教育と組み合わせた新しい取組となる見込みである。テーマは今月末までに宮崎氏から正式に提示してもらい、それを踏まえて広報を行う予定である。会場は第2庁舎3階会議室を想定している。第3回以降については詳細未定であるが、第3回の開発途上国をテーマとする講座はかんきょう塾ネットの表氏に調整を依頼していること、第4回の埋立処分場見学については本森氏が担当している旨を報告。第5回の環境負荷低減農業についての講座はもともと第1回予定であったものを後半へスライドしており、第6回については今後内容を検討していく。来年度は、6月に環境セミナーを控えているため、かんきょう塾は6月実施を省いた全7回で実施する計画である。また、かんきょう市民の会の委託事業、農工大サークルごみダイエットNOKO・明星学苑中学校とのコラボ企画、武蔵野の公園パートナーズとの森キッズイベントなども今年度同様に実施予定である。加えて、春の親子かんきょう塾バス見学については、来年度以降も狭山丘陵パートナーズと連携し、継続事業として苗木の植付け体験ができないか考えている。

かんきょう塾に関連して、来年度のグループ活動についても検討中である。今年度は原則参加として募集したが、あるグループでは活動に対する意識の違いから途中で空中分解してしまい、最終発表に至らなかったケースがあった。また、かんきょう塾に興味はあるがグループ活動は必須かとの問い合わせが事務局に複数寄せられていたことから、新規参加者にとってハードルになっている可能性もある。来年度のグループ活動の取り扱いについて、皆様から意見をいただきたい。

- ・(室委員) かんきょう塾の第一義的目的は講座に参加して知識を得ることであり、グループ活動を必須にする必要はないのではないかと。塾生へグループ活動についてのアンケートを取るのはいかがでしょうか。また、他自治体の状況を確認してみるのもよい。
- ・(浅田委員) グループ活動におけるサポーターの関わり方、参加者のテーマ選択や途中変更の可否などについて、かんきょう塾ネットで議論していただきたい。
- ・(西尾委員) かんきょう塾で学んだことを活かすというよりも、自分たちのやりたいことを追求していくほうがよい。
- ・(浅田委員) 発表そのもののハードルが高い。グループ内での活動の実情も踏まえて発表すると良い。
- ・(室委員) 受講生へのアンケートやヒアリングを通じて意見を集める場を設けるのはいかがでしょうか。

- ・(事務局：青木) 来年度募集までに大きく仕組みを変えるのは難しい。
- ・(室委員) かんきょう塾ネットで議論を深め、原則参加とするのか、希望者のみとするのかを整理してもらいたい。
- ・(事務局：熊谷) 仮に最終回でのグループ発表が無くなる場合には、その時間に別のプログラムを入れることも可能である。
- ・(杉村委員) かんきょう塾の広報の進捗を確認したい。参加者を集めるための「目玉」が必要である。
- ・(事務局：青木) 来年度のかんきょう塾の募集記事は4月15日号広報に掲載する予定である。第1回がバス見学であること、第2回も新しい取組であることから、これらが訴求材料になるのではないかと考えている。しかし、広報課との調整の結果、リード文の掲載は認められず、また第1回・第2回の詳細を表形式で載せられないことが判明した。このため、講座やバス見学を全7回実施することなどを内容欄に凝縮して書き込み、詳しくはホームページの二次元コードから確認してもらい構成にせざるを得ない状況である。内容欄にどのように魅力を詰め込むかを検討している。
- ・(杉村委員) 9月に予定している海上から埋立処分場を見学するプログラムは人気が出る可能性が高く、広報上の訴求ポイントとして有効である。

② かんきょう塾等から市政に向けた提案について・・・

- ・(事務局：青木) 浅田委員に各委員の意見を整理して作成していただいた「市政に向けての意見・提案」資料について、日付や宛名等の文書上の修正点を報告。
- ・(浅田委員) 前段に記載されていたかんきょう塾全体からの意見提案は削除し、グループ活動からの意見提案のみとした。最初の文章をコンパクトに修正し、最後にはグループ活動に対する協力をお願いを追加した。
- ・(室委員) Aグループについては提案として明確に整理できる内容が十分ではないため削除し、それ以下の比較的具体的な提案を中心に担当課へ伝える形がよいのではないかと。
- ・(西尾委員) 「脱炭素化」の④の記述について、市ではなく民間に求める提案内容になっている。
- ・(事務局：青木) 本提案の提出先として、環境政策課・公園緑地課・資源循環推進課が想定される。委員の了解が得られれば、各課へ書面を共有し、その旨をセンターホームページにも掲載する予定である。

③ その他・・・

- ・(浅田委員) 二酸化炭素濃度を測定できるモニター機器について情報共有。学校でコロナ禍に導入された例があるのではないかと市へ確認したところ、

学校によってはCO₂濃度に応じて自動的に作動する換気設備を導入した例があるものの、濃度そのものを測る機器が常備されているわけではなかった。

3. その他・・・

次回開催の日程について協議し、事務局：青木が4月8日（水）から4月16日（木）まで病休で不在となる事情を踏まえ、4月20日の週で調整することとなった。委員の予定を確認した結果、4月20日（月）午後2時から、第2庁舎6階小打合せ室で開催する方向で仮決定した。欠席者についても後日確認し、必要に応じて調整することとした。